

## 第34回東アジアビジネスカウンシル（EABC）会合 概要報告

平成28年1月

日本商工会議所

1. 日時 平成28年1月14日（木）～15日（金）
2. 場所 帝国ホテル、墨田区ほか
3. 参加者 日本、中国、韓国、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、ラオスの10か国から45名が参加。  
日本からは、釜和明東商副会頭（IHI会長）、大森一夫住友商事会長などが参加した。

### 4. 概要

#### （1）開催趣旨

東アジアビジネスカウンシル（EABC）は、ASEANと日本、中国、韓国の経済人で構成される。毎年、ASEAN+3の経済大臣と懇談、昨年11月には首脳との会談も実現し、それぞれに要望書を提出している。2016年は、日本が議長を務める年にあたり、年の当初に東京で本年第1回目の会合を開催した。

#### （2）視察

##### ① 加藤製作所（東京都墨田区）

ASEANでも関心の高い中小企業の金融へのアクセスに関し、日本のマル経融資制度を参加者に紹介するために訪問。経営指導員と融資を受けている企業の双方からの説明により、同制度を参加者に分かりやすく紹介した。（東商墨田支部と連携）

##### ② 東京ソラマチ すみだまち処

東京スカイツリーにある墨田区観光協会が運営する同区の特産品を紹介する施設を視察。（同）

##### ③ 国際機関 日本アセアンセンター

日本、中国、韓国にあるアセアンセンターとEABCとの協力を検討するにあたり、日本アセアンセンターの業務について説明を受けた。

#### （3）ワーキンググループ

##### ① RCEP

日本からジェトロと共同でRCEP対象国16カ国において経済連携に関するアンケートを実施し、RCEPについての各国民間の意見を取りまとめて要望書に反映させることを提案した。1月中に配布し、2月末までに回収し、3月中に取りまとめるスケジュールで実施する。

##### ② 中小企業

EABCと日中韓の各アセアンセンターとの協力について、各センターの参加を得て、協力協定書の締結や共同事業への実現の方法について議論された。今後、同センターとは、行事日程の情報を交換するなど、できるところか



日本のモノづくりの小規模企業を視察



墨田区の特産品を紹介する施設を訪問した

ら協力していくことになった。

今年 B20 の議長を務める中国から、B20 の中小企業ワーキンググループの活動と連携した政策提言について提案があった。

### ③ E-コマース

EABC が運用する企業紹介サイト EABEX の運営方法について議論したほか、今後、E-コマースの先進事例紹介のセミナーやフォーラムを EABC の会合に合わせて実施していくことが提案された。

## (4) 本会議

### ① 議長交代

2016 年の EABC の議長を日本が務めることになり、2015 年の議長を務めたフィリピンのジェイ・ユバロス氏から IHI の釜和明会長への交代が行われた。

ほかに日本からは住友商事の大森一夫会長が参加。釜会長、大森会長が不在の際には、ジェットロシンガポールの西川和見エグゼクティブ・ディレクターが議長代行を務めることになった。また、2016 年の副議長は、タイが務める。

釜議長は、就任のあいさつの中で、「ASEAN 経済共同体 (AEC) が発足し、RCEP



釜和明 東商副会頭 (中央) が 2016 年の EABC 議長を務める

交渉も加速化が見込まれ、今年  
は ASEAN および東アジアの  
経済界にとって

きわめて重要な時期

である」と述べ、EABC で取り組む主なテーマとして、①東アジアの経済統合への産業界の意見反映、②中小企業の育成支援、③E-コマースの推進、の 3 つのテーマに取り組んでいくと表明した。

### ② 今後の会合

4月28、29日にシンガポールで ASEAN - BAC の会合に合わせて次回会合を開催し、同時に E-コマースのセミナー等を実施することになった。

また、8月6日～8日にラオスのビエンチャンで ASEAN 経済大臣会合が、9月6日～8日に同じくビエンチャンでアセアン首脳会議が行われる予定であり、EABC との懇談を政府側関係者に働きかけていく。



ASEAN+3 の各国から参加者が東京に集まった

以上